

ハエ

室内を飛び回り不快感を与え、汚物に飛来することで病原菌を運ぶことがあります。



室内で発生したニクハエ（宮前区菅生・10月）



形態

- ・翅は4枚ありますが、後翅は退化しているため、見た目は2枚。
- ・頭部には大きな複眼があります。
- ・成虫の大きさは幅広い。体長が2mmや3mmなど微小なハエを便宜的にコバエと呼びます。
- ・幼虫は細長い円筒形。足がなく、ウジと呼ばれています。

生態

- ・屋内での発生源は、食物クズや植木鉢の油粕など様々です。
 - ・屋外から飛んできた成虫が、幼虫のエサとなる生ゴミなどに卵を産みつけます。
 - ・卵から成虫になるまでの期間は2週間たらずです。
- 卵や幼虫は人の目につかないため、突然、成虫が大発生したように見えます。

生しいだけに発生したウジ
(宮前区水沢・10月)



被害

- ・糞便など汚物にもたかるため、消化器系伝染病などの病原菌を媒介します。

駆除するには

- ・ハエの発生場所である生ゴミや腐敗物を捨て、清掃します。
- ・飛んでいるハエを見つけた場合、ハエ叩きやスプレー式殺虫剤を噴霧します。
- ・台所など殺虫剤が使いにくい場所では、ハエ取りリボンや粘着シートを吊り下げます。

発生を予防するには

- ・ゴミはまめに捨てます。三角コーナーの生ゴミもこまめに処理し、発生源となる食品クズを放置しないようにします。また、生ゴミはふた付き容器に捨てます。
- ・窓やドアはできるだけ開放せず、窓には網戸を取り付け、成虫の侵入を防止します。

